

(様式3)

海外視察報告書

平成 27年 3月 27日

横浜市会議長
佐藤 祐文 様

横浜市会議員
氏名 太田 正孝



次のとおり海外視察をいたしましたのでその結果を報告します。

1 目的

ハンガリー共和国・セルビア共和国政府の招聘を受けて、当該国の首都、ブダペスト市とベオグラード市を訪れ、両市と横浜市の友好親善交流のための礎となるべく、両市政府・行政機関の行政の実情を見聞きし、両市が行っている、主として観光文化芸術部門の行政実態について調査するものです。

ブダペスト市では副市長らとの懇談・ベオグラード市では大統領顧問等々と、今後の、横浜市と両市の交流について、具体的な話し合いを持ちます。また、文化芸術観光施設をつぶさに視察いたします。訪問途中の経由地パリにおいては、芸術文化的遺産である町区域の保存・活性化施策について見聞いたします。また、芸術文化遺産の実地検分により、その分野の知識、見識を養います。

2 場所

ハンガリー、セルビア共和国、フランス共和国

3 期間 自 8月23日(土)
至 9月 1日(月)

4 調査事項(概要)

別添報告書のとおり

5 参加議員レポート(別途添付)

6 資料(別途添付)

平成 26 年 8 月 23 日から 9 月 1 日まで、ハンガリー及びセルビア共和国両政府の招聘を頂き、両国首都ブダペストおよびベオグラードとその近郊を視察いたしました。

視察の大きな目的は、この度の訪問をして、両都市と横浜市の友好親善の礎となることであり、両国の文化芸術観光資源をつぶさに視察し、実地検分を通して、太田正孝市会議員の、市会議員としての素養を高め、知識・見識を養いそれを、横浜市の文化芸術観光方面の施策に生かしていくというものであります。

訪問の復路で、芸術文化観光都市パリを訪れ、同様の視察を行いました。

この海外視察における報告は以下の通りです。

1) 子供鉄道

8月23日夜、羽田空港を発ち、パリ経由ブダペスト到着は翌24日午前9時半でありました。

旅装を解き、まずは、ハンガリーが共産主義政権の時代に始められた小学生10歳から中学生14歳までの子供たちで運営・運行されている「子供鉄道」を視察いたしました。

鉄道は世界遺産のブダペスト郊外にある森の中を走る列車で、観光目的ではありますがれっきとした鉄道であります。

改札口には10歳の少年とそれよりやや年長の二人が執務しておりまして、その後方にある一部屋に大人が待機して執務を見守っておりました。公務の関係から、汽車賃の領収書を請求した折に、この大人が領収書の手配をいたしました。その記載から発行まですべて子供の手で行われました。

切符を受領して列車に行く前の改札も子供の手で行われて、大人は介在しません。列車に乗ってからの検札もま

た子供だけで行い、列車の進行や途中の踏切の看視もすべて子供が行っており、列車の運転だけが大人の仕事でした。ご愛嬌は、進行中に、子供乗務員が、子供列車のバッジを売り歩いてきたことで、何とも微笑ましい事でした。

◎教訓（横浜市で見習うべき事項）

横浜市でも、例えば、こどもログハウスとか、こども科学館とか、大人の指導で、土日に子供たちに該施設を管理運営させることもできると思います。

それを通して、営業や労働の喜び、管理能力の養成を図るなど、子供の教育にはきわめて有効であります。

横浜でも取り入れるべき社会勉強であると感じました。

子供鉄道の詳細については、さらに研究したいと思えます。

2) 世界遺産ブダ地区の観光行政

ブダペストのブダ地区は世界遺産の伝統的建築物保存地区です。

丘の上の旧市街地には数多くの博物館もあり、旧市街が旧市街然と保存されております。

石畳の道路の保存修復作業を視察いたしましたが、20センチ立法の石を畳敷きにする作業はなかなかの労力を必要としておりましたが、車両の通行にも十二分に耐えるもので、その作業状況は別添の写真でお示しいたします。

驚くべきことは、博物館の案内板に、日本語で書かれたものがあったことです。(参考写真参照)

ブダ地区からペスト地区を周遊する観光バスに乗りましたが、遊覧音声ガイドは24か国語で行われ、もちろん日本語もあり、横浜市の、中国語、ハングル、英語のたった3か国語と比べれば、さすがブダペストが国際観光都市としてあるという事がわかりました。

◎教訓（横浜市で見習うべき事項）

以上のちょっと触れたブダペストの観光事情だけでも「国際観光都市横浜」がちっとも国際観光都市でないことがわかります。

観光行政は、須らくブダペストを見習うべきです。

3) ブダペスト副市長・ハンガリー外務省職員との会見と懇親午餐会

8月25日、ブダペスト市庁舎を訪問し、副市長・ハンガリー外務省観光担当官らと会見し、会見後は近在のレストランで午餐会に出席致しました。

席上以下のことを提案され、実現していく方向で努力することが確認されました。

- ①今後の横浜市との友好親善関係を築くためにも、相互に市関係者が交流する
- ②両都市市庁舎内にそれぞれの都市の観光案内コーナーを設ける
- ③横浜市立大学とブダペスト大学との交流を図る等々

なお、相互のスポーツ交流として、横浜発祥の「スポーツチャンバラ」につき、ブダペスト市でも関心があるとのことで、公益社団法人日本スポーツチャンバラ協会とブダ

ペスト市との双方を結びつけるために、私から協会に連絡を取ることを約束してまいりました。このことは既に実行に移しておりまして、遠からず、ブダペストに、横浜発祥のスポーツチャンバラが普及する事でありましょう。

スポーツチャンバラは、今後、横浜市とブダペスト市の友好に一役買うことは間違いありません。

4) センテンドレ地区

センテンドレはブダペスト市街地から15キロはなれた所にあつて、その中心の広場を起点に半径200メートルぐらいに12もの博物館や美術館がある文化芸術の街です。さらにそれから車で10分ほどには芸術文化村と言う、この地方の村落をまとめて移転した観光村があつて、そこには、居住しながら農業や牧畜・染色などをして暮らす住民もおり、川崎の日本民家園や韓国の民俗村のようなところとなっております。この度は、その芸術文化施設の集積のありさま、芸術文化村のありさまを現認すべく視察いたしました。

センテンドレでは、古いセルビア正教の教会（この地方は、ハンガリーながら隣国のセルビア人が多く住み、その人々によって発展した街です）とその教会の宝物・絵画を展示する美術館が併設されておりましたからそれを参観し、神父の説明と案内を受けました。

小さな町に驚くほどの美術館等々の数、その内訳は以下の通りですが、そういうわけでこの町にそれらを目当てに来る観光客が引きも切らさず、それを目当てのレストラン・土産物屋がこれまた街を埋め尽くさんばかり、真に文化観光の町然として素晴らしいものでした。

センテンドレ地区の主な美術館

セルビア正教美術館・ワイン博物館

フェレンツジ=カーロイ美術館・マルギッド美術館

バルチャシ=イエネコレクション・マジパン博物館

ヤーノッシュ美術館・チョーベル美術館 等々

文化芸術村は郊外の田園地帯の広大な土地に、一つの村落を保存展示しているもので、広大な敷地ですから、内部には鉄路が敷設されていて、適当な場所に駅があって、乗り降りをしていましたが、どの駅にも、乗り降りのための障害者リフトが設置されているのが大変恐れ入りました。

バリアフリーに対する配慮は、日本でも見習わなければなりません。

◎視察で得た教訓等々

横浜でも、このセンテンドレや、日本でいえば、東京の上野エリアのように、文化芸術施設を集積して、観光客や文化芸術を学ぶ人々を魅了しなければなりません。

文化芸術都市を目指すとして、文化観光局まで新設している横浜ですが、そうした施設が極めて少ないのが残念です。

横浜市は、今後、このセンテンドレから、貴重な「何か」を学ばなければなりません。

5) 地産地消レストラン

ブダペストからベオグラードに向かう途中、広大な平野に点在する農家の中で、この地方の農産物をもってレストランで供する地産地消の農民レスト施設を訪れました。

ノビサド近郊のサラス137と言うレストハウスです。

小さいながら宿泊施設もあり、乗馬施設もあります。

マリアテレジアの時代に入植地として造られた農園の137番目と言うところで、野菜料理、農村のブタや鳥類を出す牧歌的なレストランは満員でした。

パンフレットを添付いたしましたからご覧ください。

◎視察で得た教訓等々

横浜でも、農業専用地区に隣接する形で、地産地消レストランを開設するように奨励すべきでしょう。

近くは市原市の養老溪谷温泉駅近くの(文化芸術村)に、この地域の農家の主婦で経営する地産地消レストランがありますが、横浜でも、是非やってほしい試みです。

6) ノビサド地区

ノビサドの市庁舎前は歩行者天国であり、四方にテントを張った屋外飲食用テーブル椅子が設けられて、一大レストラン街になっておりました。

写真を添付いたしましたからご覧ください。

◎視察で得た教訓等々

パリのシャンゼリーゼもそうですし、クリニャンクールの蚤の市もそうですが、大通り公園とか日本大通りを常設の屋外レストラン通り、定期的蚤の市に開放し、内外の客を集めることを考えたらいかがかと思います。ただ今は単発的に行っているようですが、土日常設にするとか、クリスマスの時期はイルミネーションで飾って、多くの客を呼び込んだらよいと思います。

7) セルビア共和国大統領顧問との懇親晩餐会

ムルキッチ元セルビア共和国外務大臣・現大統領顧問との懇親晩餐会をこちら主催で開催いたしました。

横浜市渡辺副市長らがセルビアを訪れたときの厚遇に対するお礼・今後の横浜とベオグラードの友好親善をどのように行うべきかと言う事に対する意見交換・林横浜市長のベオグラード市公式訪問の要請等々のお話を二時間半余行いました。セルビア次期大統領かとも言われているムルキッチ氏でもあり、晚餐会での懇親は、非常に有意義でした。

8) シロゴイノ村

ベオグラードから300キロ離れた郊外の村に、村一村を文化財として保存している「古い村＝シロゴイノ村」を訪ねました。

丘の頂に教会を配した村は、校倉造りやこけら葺きの部落であり、敵が襲撃してきたときに、女性や子供を隠す小屋とか、山の蜂蜜を採る小屋とか、いろいろ面白いものがあり、これもまた川崎の日本民家園を思わせる素晴らしい文化遺産でありました。

驚いたことに、日本人などはめったに訪れないのではないかとと思われるこの村の案内所には、世界24か国語で書かれた観光案内パンフレットが備えてあり、もちろん、日本語で書かれた解説書もあったことでした。

解説書は別添しましたからご参照ください。

◎視察で得た教訓等々

我横浜市では、例えば代表的観光地である三溪園でも、このような外国人に対するパンフレットの配慮はありません。

外国人墓地界隈の横浜市所有の「異人館」では、パンフレットさえない所もあり、来館者の要求にこたえられないのです。

観光都市を目指すと、常日頃言っている横浜市の姿勢・市政にはあきれてしまいます。

速やかに、改善すべきことです。

9) パリ市内の文化観光施設視察

この度は特に日本人に知られたところではなく、民間の私設美術館数カ所を訪ねました。

入館料を無料とするところもあり、なかなか素晴らしいもので、その施設の名前を以下に紹介します。

視察した施設名

ジャックマレイ＝アンドレ美術館

コニヤック＝ジェイ美術館・カルナバレ博物館 等々

◎視察から得た教訓

横浜市でも、多くの篤志家により私設美術館の創設を奨励したらよいと思います。鎌倉などでは比較的多いのですが、横浜は大きな都市なのに貧弱です。

横浜美術館のようなものもよいのですが・・・・・・・・

10) 観光列車風連結バス

モンマルトルの丘の上からムーランリュージュを見てまた戻るといった観光周遊連結バスが運行されており、これに試乗いたしました。

◎教訓

桜木町から赤レンガ~山下公園まで、この連結観光バスを走らせるべきです。民間有志の出資で、民営がよいと思います。速やかに立案、実施すべきです。

11) 東日本大地震・東北復興祭

パリのエッフェル塔下公園・シャン・ド・マルス公園で開催されておりました東日本大地震・東北復興祭に参加し会場を見て回りました。

会場内には、日本各地の観光地を紹介する観光ブースがありました。日本武者姿に変装したパリッ子などが宣伝に努めておりましたが、残念ながら、国際観光都市を標榜する横浜市を紹介するパンフレットも何もありませんでした。

た。

私は、横浜市会議員を名乗って、なぜ横浜市だけがないのかと係りに尋ねたところ、持ってこなかったとの答えがありました。

林市長は年に数度、横浜をセールスすると言ってパリなどに出かけていますが、パリで行われている日本紹介のイベントでこのありさまですから、全く持って残念と言うか、市長の横浜セールスは実を結んでいないようです。

◎教訓

横浜市をもっと宣伝する必要があります。

諸外国に、横浜市の観光パンフレットくらい、配り歩く努力が必要でしょう。

市会議員も市長も、海外に出たときは、横浜市のパパンフレットを配ったり、置く場所を確保する努力が必要です。

完